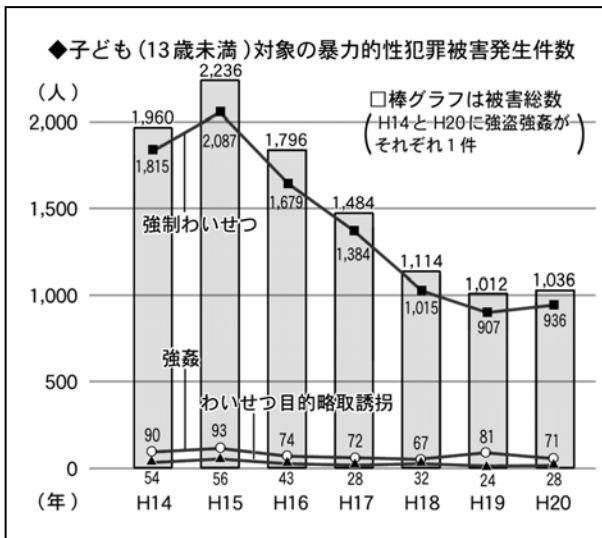


# 性犯罪

## 性犯罪の種類と発生件数

性犯罪は大きく分けて、強姦、強制わいせつ、強盗強姦、わいせつ目的略取・誘拐といった暴力的性犯罪と、公然わいせつ、わいせつ物頒布などの非暴力的性犯罪がある。

これらのうちで、子どもに深刻な被害を与えるのは暴力的性犯罪であり、毎年、強制わいせつの件数が群を抜いて多い。被害者の中には未就学児童も含まれ、男児も例年約3～4%被害にあっている。



## ○就学別の犯罪被害件数(平成21年上期)

区分	強姦	強制わいせつ	公然わいせつ
被害件数	676	3,053	418
少年計	283	1,572	199
未就学	0	26	2
小学生	20	344	27
中学生	46	210	56
その他少年	217	992	114

強制わいせつ事件には、通りすがりに抱きついて逃走するといった比較的軽微なものから、被害者の心身に深刻なダメージを与えるものまで、幅広い行為が含まれる。そのため、強制わいせつ事件の多さは、子どもや保護者、地域住民にとって注意すべき問題である。

また、性犯罪は他の犯罪に比べて警察に通報され

る場合が少なく、被害者の数は実際にはもっと多い。親族や知人が犯人の場合は、より通報しにくいという状況があることも留意しておく必要がある。

## 発生状況

幼児および小学生を対象とした性犯罪(強盗強姦、強姦、強制わいせつ、公然わいせつ)の発生の実態が『幼い子どもを犯罪から守る/北大路書房』で詳しく紹介されている。

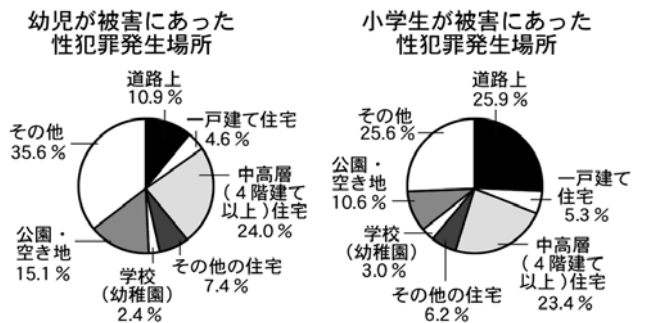
### ・発生時期

全体的に11月から2月の寒い時期には件数が少ない。幼児の場合、3月と8月が多く、小学生の場合は夏休み期間期間である8月は少ない。

発生時間帯は、「15時～18時」の時間帯が最も多く、次に「12時～15時」で、お昼から夕方までの発生が全体の6割から7割を占めている。これは、子どもが自宅や幼稚園、学校などの施設外にいる時間帯でないと犯人が子どもに接触しづらいためだと考えられる。

### ・発生場所

幼児、小学生ともに住宅での被害が多いが、小学生の場合は道路上での被害も多い。また、幼児の場合、「その他」の約3分の1を「商店」が占め、保護者と同行しているときでも、被害にあう可能性があることを示している。



### ▲幼児・小学生対象の性犯罪の発生場所

以上のようなことから、幼児・小学生を対象とする性犯罪では、季節・時間帯・発生場所などはいずれもが被害者側の要因に依存しているであろうと結論付けられている。